

『大学教育』執筆要領

2004年11月5日施行
2006年11月10日改定
2007年4月13日改定
2012年12月1日改定

第1条 本誌に掲載される論文等1篇の分量（日本語の表題・著者名、英語の表題・著者名・抄録、日本語および英語のキーワード、図表を含む）は、原則として以下を目安とする。ただし、編集委員会が認める場合はこの限りではない。

| | | |
|------|--------|--------------|
| 研究論文 | 20000字 | （刷上り12ページ）まで |
| 報告 | 10000字 | （刷上り6ページ）まで |
| 資料 | 6000字 | （刷上り4ページ）まで |

第2条 原稿はワープロソフトで作成し、原稿ファイルの入った電子媒体（CDやUSBメモリ等に保存し、使用したソフトウェア名・バージョンとファイル名を明記したもの）1点と印刷したもの3部を提出のこと。査読を経て受理された後、原稿のファイルを記録した電子媒体（CD、USBメモリ等に保存し、使用したソフトウェア名・バージョンとファイル名を明記したもの）1点を提出のこと。なお提出された書類等は原則として返却しない。

第3条 原稿は次の宛先に送付する。

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学 大学教育研究センター 『大学教育』編集委員会

第4条 原稿は、A4判、上下左右に25mmのマージン、1行45文字、1ページ40行というフォーマットで作成すること。なお、本誌の1ページは24字×40行×2段（1段960字）の1920字である。図は1つにつき、半ページから1ページ程度のスペースを必要とするので、適宜本文の字数を減らすこと。

第5条 1ページ目には表紙をつけ、論文タイトル（日本語・英語両方）、執筆者（複数の場合は全員）の氏名と所属（いずれも日本語・英語両方）、査読結果等の連絡先（郵送先・電話・ファクス・E-mail アドレス）、「研究論文」、「報告」、「資料」「書評・文献紹介」の区分を記載すること。

第6条 2ページ目には、

【研究論文】

冒頭に「論文タイトル」（日本語・英語の両方）、続けて3～5語の日本語および英語のキーワード、300語程度の英語の「抄録」（Abstract）を記載してから本文を始めること。ここには執筆者の氏名を記載しないこと。最後に400字以内で日本語「抄録」を記載すること。

【報告・資料】

冒頭に「論文タイトル」（日本語・英語の両方）、続けて3～5語の日本語および英語のキーワード、400字以内で日本語「抄録」を記載してから本文を始めること。ここには執筆者の氏名を記載しないこと。報告・資料には英語の「抄録」（Abstract）はつけ

なくてもよい。

- 第7条 見出しレベルは節・項・目の3つまでにとどめ、それぞれゴシック体にする。
- 第8条 和文は常用漢字・現代仮名遣いを用い、句読点には「、」「。」を用いる。
- 第9条 図と表は必要最小限にとどめ、それぞれ連番を付し、簡潔な見出しをつける。
- 第10条 注は、本文の末尾に「注」というセクションを設け、一括して記載する。
- 第11条 本文中での注の指示は、カギ括弧で連番を付して示す。例：[1]、[2]、…
- 第12条 本文中で引用された文献は、注のセクションの後ろに「引用文献」というセクションを設け、アルファベット順にすべて漏れなく記載すること。
- 第13条 本文中での引用文献の指示は、著者名・刊行年を小括弧に入れ、カンマで区切って示す。その際、外国人名は原語で表記する。例：(青木, 1993)、(Smith, 2002)
- 第14条 同じ著者で同一刊行年の文献を複数引用する場合は、それぞれ刊行年の後ろにアルファベットを付して区別すること。例：2004a, 2004b, …
- 第15条 「引用文献」のセクションでは、各文献は以下のようなスタイルで記述すること。

引用文献のスタイル

(1) 著書

日本語文献：著者名 (刊行年), 『著書名』, 出版社.

欧米文献：Surname, Initials. (Year), *Title*, Publisher.

大阪太郎 (2004), 『現代大学教育論』, 東京教育問題出版.

Osaka, T. (2004), *Modern Higher Education*, Macmillan.

(2) 編著書の分担執筆論文

日本語文献：著者名 (刊行年), 「論文(章)タイトル」, 編者名『著書名』所収, 出版社, ページ.

欧米文献：Surname, Initials (Year), “Title,” in Editor’s Surname, Initials (Ed.), *Title*, Publisher, Pages.

大阪太郎・神戸和夫 (1999), 「大学における初年次教育の課題」, 関西三郎・近畿次郎編著『現代の大学教育問題』所収, 教育時事出版, 63-86.

Osaka, T. and Kobe, K. (1999), “Debating on the first year experiences in university,” in Kansai, S and Kinki, J. (Eds.), *Issues on Modern Higher Education*, Prentice-Hall, 63-86.

(3) 雑誌などに掲載された論文

日本語文献：著者名 (刊行年), 「論文名」, 『雑誌名』, 巻数, 号数, ページ.

欧米文献：Surname, Initials (Year), “Title,” *Journal*, Volume, Number, Pages.

京都雅夫 (2001), 「大学における専門教育」, 『大学教育研究』, 第2巻, 第11号, 13-20.

Kyoto, M. (2001), “Expertise education in university,” *Research for Higher Education*, Vol. 2, No. 11, 13-20.

- 複数の著者がいる場合は、省略せずに全員を記載すること。なお、欧米文献で複数の著者がいる場合、2人目以降の著者名もすべて Surname, Initials の順で記載すること。

- 英文の組織名・雑誌名等は、省略せずに正式名称で記載すること。
例：(誤) AERA → (正) American Educational Research Association